

4) アミノ酸製剤投与による麻酔中体温の変動について

東京女子医科大学 麻酔科学講座

尾崎 眞, 根岸千晴

多くの全身麻酔薬は、自律性の体温調節反応を抑制する。また体内の熱の再分布により全身麻酔導入後、ほとんどの症例において術中低体温が観察されることが多い。これを防ぐための努力のほとんどが、体外からの加温により熱を与え、中枢温を上昇させようというものである。これに対して、術中にアミノ酸製剤を輸液することにより体温低下が防がれることが知られており、我々もアミパレン(大塚)を 0 ml/kg, 2 ml/kg, 4 ml/kg と投与量により 3 群に無作為に分けた開腹術患者において、投与量依存性に中枢温低下が防がれることを確認した。次いで、体温維持の機序をラットにより検討したところ、他の熱源としての 10%糖液などでは体温低下は防げず、酸素消費量が糖液、生食投与群と比較してアミノ酸投与群において高値を示した。